

法華コモンズ仏教学林

2022(令和4)年度 前期講座 4月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

〈 開設講座 〉

連続講座「仏教哲学再考—『八宗綱要』を手掛かりに④」全4回

開講時間 午後4時30分～6時30分

講師：末木 文美士

第1回 5月14日 / 第2回 6月4日 / 第3回 7月2日 / 第4回 8月6日

シリーズ講座「法華仏教講座」全6回 開講時間 午後4時30分～6時30分

第1回 4月9日 「天台と三論 一久遠実成を考える—」

講師：村上明也

第2回 5月7日 「最澄・徳一論争と、その後の展開」

講師：師 茂樹

第3回 6月25日 「法華御籤の成立と展開」

講師：芹澤寛隆

第4回 7月30日 「堅樹院日寛教学をめぐる」

講師：水谷進良

第5回 8月27日 「『開目抄』再考」

講師：都守基一

第6回 9月10日 「日蓮教学における教観論と種脱論」

講師：花野充道

歴史から考える日本仏教⑨「法華持経者の思想的系譜」全5回

第1講～第4講：第3火曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菊地 大樹

第1講 4月19日 「山林修行と持経者」

第2講 5月17日 「持経者としての後白河院の宗教世界」

第3講 6月21日 「持経者から日蓮へ—密教をめぐる問題」

第4講 7月19日 「南都堂衆の活動と持経者」

特別講義 9月17日(土) 午後6時30分～8時30分

「対談：法華経の行者か、持経者か—間宮啓王先生をお迎えして」

連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全6回

原則：最終月曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菅野 博史

第1回 4月25日 / 第2回 5月30日 / 第3回 6月27日

第4回 7月25日 / 第5回 8月29日 / 第6回 9月26日

※コロナ禍状況によりオンラインまた動画配信講義への変更等も御承知のほどお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開頭」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



皆様のご参加をお待ちしております！

学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



法華 commons 仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

- 理事長 西山 茂
- 学林長 布施義高
- 事務担当 澁澤光紀
竹内敬雅
- 財務担当 竹内敬雅
- 総務担当 西條義昌
- ブログ担当 林 明彦
- ツイッター担当 武川清明
- 動画配信 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦／山名隆年

【教学委員】

- 上杉清文
- 花野充道
- 菅野博史
- 寺尾英智

【講座担当】

- 講座（末木先生）佐古弘純／武川清明
作田光照
- 法華仏教講座 西山明仁／佐古弘純
波田地克利
- 講座（菊地先生）芹澤寛隆／西山明仁
谷口 智
- 講座（菅野先生）稲田隆広／作田光照
澁澤光紀

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂3階会議室（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

コロナ禍の終息後は、地階ホールが主な会場になります

※「対面講義」を前提として開催日と会場をお知らせしています。コロナ禍の状況により「オンライン講義」「講座動画配信」「代講」または「延期」「中止」などの変更も予測されますので、受講者の皆さまにはご了承の程よろしくお願い致します。なお、延期・中止の場合は「受講料は返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



◎受講申込は、最後の12頁に申込説明と「申込欄」がありますので、そちらをご覧ください。

—法華コモンズ仏教学林 2022年度前期 全4回 **オンライン講座**—

仏教哲学再考——『八宗綱要』を手掛かりに ④

講師：末本文美士 先生

【講義概要】

凝然『八宗綱要』（1268）は、著者29歳の若書きであるが、750年経った今日でも、仏教教学の全般を見渡すには、本書に優るものはない。とは言え、形式的に主要概念を羅列しただけのところも多く、いわば暗記用の受験参考書のような味気ないところがある。それ故、手掛かりとしては便利であるが、それ以上の内実を求めるのは難しい。そこで、本講義では、講読という形ではなく、本書を手掛かりとしつつも、それに捉われずに、諸宗の教学を今日どのように受け止め、考えたらよいのか、応用的に問題を広げ、手探りして検討していきたい。前期の継続で、天台宗から読み始めるが、新規聴講も問題ない。下記テキストを用いるので、聴講者には毎回多少予習しておくことを求める。

★教科書：鎌田茂雄全訳注『八宗綱要』（講談社学術文庫）

【講師略歴】

末本文美士（すえきふみひこ）。1949年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、未来哲学研究所所長。専攻は仏教学、日本思想。著書に『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』（新潮文庫）、『仏教 言葉の思想史』（岩波書店）、『日蓮入門 現世を撃つ思想』（ちくま新書）、『思想としての仏教入門』（トランスビュー）、『『碧巖録』を読む』（岩波現代文庫）、『草木成仏の思想』（サンガ）、『冥蹟の哲学1、2』（ぶねうま舎）、『日本思想史』岩波新書、他多数。

【講義日】 全4回 時間（原則・第1土曜日）：午後4時30分～6時30分

第1回	（第13講）	2022年	5月14日（土）
第2回	（第14講）	〃	6月4日（土）
第3回	（第15講）	〃	7月2日（土）
第4回	（第16講）	〃	8月6日（土）

【会場】 本講座は、オンライン実況講義で開催します。後に動画配信もあります。

【受講料】 1期4回分 10,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

—法華コモンズ仏教学林 2022年度前期 連続講座 全6回—

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日 時】毎月1回 原則土曜日の午後4時30分～6時30分 (2022年4月～9月の6回)

【会 場】新宿常円寺祖師堂3階会議室 新宿区西新宿7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】1期6回分 12,000円 ※1回のみ受講料は3,000円です

第1回 天台と三論 一久遠実成を考える— 講師：村上明也 先生

【日 時】 2022年 4月 9日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

天台大師智顛(538-597)は、自らの手で書物を著すことがきわめて少なく、「天台三大部(法華三大部)」として有名な『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』といえども、これを書籍のかたちにとまとめたのは、門人の章安灌頂(561-632)であると考えられています。要するに、いま現在、我々が見ている「天台三大部」は、智顛の講義内容をそのまま記録したものではなく、灌頂が度重なる編集を加えた末に完成させた文献なのです。しかも、多くの研究者が指摘するように、灌頂は同時代の嘉祥大師吉蔵(549-623)の『法華玄論』『法華義疏』の本文を、『法華玄義』『法華文句』の中に取り込んでいます。これは、他人の文章を無断で利用するという、現代では「盗用」「剽窃」「盗作」と呼ばれる行為に該当すると言えるでしょう。どうして灌頂は吉蔵の著作の内容を智顛の講義録の中に取り込んだのでしょうか。本講義では、文献や思想の交渉という視点から、天台と三論の教理を分かりやすく解説します。

【講師略歴】

村上明也(むらかみあきや)：1982年、京都府生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。現在、駒澤大学講師。専門は東アジアの仏教思想。編著書や分担執筆に『源信撰『阿弥陀経略記』の訳注研究』(法蔵館、2020年)、『蔵俊撰『仏性論文集』の研究』(法蔵館、2019年)他。論文に「章安灌頂による『摩訶止観』の本文整備—十境・十乗観法(近方便)を中心に—」(花野充道博士古稀記念論文集『仏教思想の展開』、山喜房仏書林、2020年)、「日本天台が与えた趙宋天台への影響—源信問・知礼答『答日本国師二十七問』を中心に—」(『日本仏教総合研究』17、2019年)他。

第2回 最澄・徳一論争と、その後の展開 講師：師 茂樹 先生

【日 時】 2022年 5月 7日(土) 午後4時30分～6時30分 ※オンライン講義

【講義概要】

平安時代初期に展開した最澄・徳一論争は、三一(一三)権実論争などとよばれてきた。すなわち一乗を説

く『法華經』を真実の教えとし、「一切衆生悉有仏性」を標榜する最澄と、一分不成仏説、五姓各別説に依拠し、法華一乗は方便であると主張する徳一とのあいだの論争だと考えられてきた。もちろんその理解は、間違いではない。しかし、拙著『最澄と徳一 仏教史上最大の論争』（岩波新書）でもその一端を明らかにしたように、この論争は一乗 vs. 三乗だけにはとどまらない多様な歴史的背景・ネットワークのなかで成立しており、またその多様性は、後に様々な思想が展開するための土壌にもなった。

本講義では、最澄・徳一論争の概要を述べるとともに、この論争の後にどのような論争が起き、またこの論争で議論されたことが後の人々にどのように受け止められてきたかをいくつかご紹介したい。教科書的（という言い方がよいのかはわからないが）な日本仏教史の説明であれば、最澄・空海に代表される「平安仏教」から、いきなり鎌倉時代の「新仏教」に飛んでしまう。さらに勉強されている方であれば、院政期の仏教や、本覚思想など、もう少し細かい情報についてご存じの方もおられるだろう。近年、研究が進展するなかで、日本仏教史の“眺め”は大きく変化し、また“解像度”も上がってきている。本講義でも、別の角度から、“解像度”を少し上げることが試みたいと思う。

【講師略歴】

師茂樹（もろしげき）：1972年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、東洋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文化交渉学、関西大学）。現在、花園大学文学部教授。著書に『最澄と徳一 仏教史上最大の対決』（岩波新書、2021年）、『論理と歴史 東アジア仏教論理学の形成と展開』（ナカニシヤ出版、2015年）、『『大乘五蘊論』を読む』（春秋社、2015年）など。

第3回 法華御籤の成立と展開

講師：芹澤寛隆 先生

【日時】 2022年 6月25日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

現在でも、幅広く用いられているおみくじ。その成立も種類も多様であり、一種の民間信仰として広く用いられている。大別すると仏教系御籤と神道系御籤があるが、仏教系御籤は主に天台宗による元三大師御籤が用いられている。その中にあって一部地域のみに残存する日蓮系の御籤がある。『法華經御籤』と称されるが、その内容は元三大師御籤とは内容も構成も大きく異なる。この『法華經御籤』の成立は近世後期と考えられるが、なぜこのような御籤が作られたのか。そこには庶民信仰、祖師信仰が大きく関わっている。本講義では近世における仏教系御籤がどのように用いられていたかについて示しつつ、『法華經御籤』の成立と展開について、特に近世の日蓮門下が御籤という民間信仰をどのように活用していったのかを解説する。

【講師略歴】

芹澤寛隆（せりざわ かんりゅう）：1980年静岡県生まれ。東北大学大学院文学研究科文化科学専攻日本思想史専攻分野博士課程修了。博士（文学）。現在、法華宗（本門流）教学研究センター研究員。日本思想史学会会員。専攻は日本思想史、日蓮聖人教学研究、おみくじ研究。著書に『常在寺蔵法華經御籤』。主要論文に「日蓮遺文の真偽：説話の内容を軸として」（『宗教研究』89号、2015年）、「法華經御籤に関する一考察—新出史料『法華宗御籤繪鈔』を手がかりに—」（『桂林学叢』30号、2019年）など。

第4回 堅樹院日寛教学をめぐる

講師：水谷進良 先生

【日 時】 2022年 7月30日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

富士大石寺第26世法主である堅樹院日寛(1665-1726)は、日蓮宗教学史上、江戸期勝劣派における代表的教学者であり、石山教学を体系化した学匠として高名です。

日寛教学の特質の一つとして、本門教主釈尊の永遠性・化導の常住性を志向するのではなく、過去仏としてその働きに終わりを見、釈尊にかわって下種を施す本因妙教主日蓮聖人への信仰へ転換する、いわゆる日蓮本仏論があげられます。ところでかかる思想は、今日の祖書学(教学・書誌学・古文書学・文献学)的に信頼できる日蓮聖人遺文からは見いだすことはできません。しかし偽疑が濃厚である『本因妙抄』・『百六箇相承』等、いわゆる相伝書にはその思想が見られ、日寛はかかる相伝書の指南をもって遺文を理解し、日蓮聖人の随自意を捉えようとする宗学態度でありました。

また日寛による教学組織化の背景には、要法寺と大石寺の通用にはじまる日辰教学の影響が、当時の大石寺内に未だ燻っていたことなどがあげられます。日寛は大石寺17世日精の説法を聴聞し仏道を志しましたが、日精もまた日辰の流れを汲む京都要法寺から大石寺へ晋山した僧でした。日寛教学とは、こうした影響を排し従来の興門教学復興と、その思想の盤石化を図ったものと言えましょう。ここに日寛が石山教学の大成者として仰がれる所以が存するのです。

本講義では、かかる日寛教学について、その生涯や著作活動を通して少しく確認していきたいと思います。

【講師略歴】

水谷進良(みずたにしんりょう)：1985年大阪府生まれ。立正大学仏教学部宗学科卒業。立正大学大学院文学研究科博士後期課程宗学コース満期退学。後、日蓮宗宗費研究員・立正大学日蓮教学研究所研究員を経て、現在日蓮宗現代宗教研究所研究員。専攻は主に日蓮教学・日蓮宗教学史。

第5回 『開目抄』再考

講師：都守基一 先生

【日 時】 2022年 8月27日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

『開目抄』は日蓮聖人遺文中、もっとも長編で内容も多岐にわたっている。望月敏厚先生『日蓮教学の研究』は、『開目抄』と『観心本尊抄』の題号を比較して、譬喩的事相的立題と法体的直接的立題との相違を指摘されているが、聖人遺文中、譬喩による命名は『開目抄』だけのようであり、この点からも特別な一書の感を受ける。撰述七百五十年を機に本書の再考を試みたい。

【講師略歴】

都守基一(つもりきいち)：1961年、愛知県生まれ。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程修了。現在、常円寺日蓮仏教研究所主任、身延山大学仏教学部非常勤講師。編著に『日蓮仏教研究』1～9、『中村檀林資料』1～3、『京都本法寺宝物虫払い出展目録』10冊、『京都本山妙覚寺歴代先師会の栞』4冊など。論文

に『法華取要抄』の草案について』（『大崎学報』154号）、「日蓮聖人遺文『善無畏三蔵鈔』再考」（『日蓮仏教研究』1号）、「『立正安国論』の再確認」（『身延山大学東洋文化研究所所報』16号）など。

第6回 日蓮教学における教観論と種脱論

講師：花野充道 先生

【日時】 2022年 9月10日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

日蓮教学における教観論とは、教相と観心についての論であり、種脱論とは下種益と脱益についての論である。天台教学においては、仏の教えを五時や八教に判別することが教相であり、諸法の実相を証得するための一心三観や一念三千の実践が観心である。日蓮教学の教相論は、本迹の勝劣や種脱の勝劣を認めるか否かについて異論がある。観心論は観念観法の理の一念三千ではなく、事の一念三千、すなわち唱題（本門の題目）とすることについて異論がない。ただ日蓮は本尊について、「観心の本尊」「本門の本尊」とも称しているから、本尊もまた教相の本門や観心と関係があることが推論される。日蓮の滅後、各門流の教学研究において、教相の本門と観心との関係、あるいは教相の本門と下種の題目との関係が種々議論されてきた。原始天台や中古天台の教観論をふまえて、日蓮教学の教観論や種脱論について少しく解説してみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなの じゅうどう）：1950年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士(文学)。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。

—法華コモンズ仏教学林 2022年度前期 連続講義 全5回—

連続講座 歴史から考える日本仏教⑨

法華持経者の思想的系譜

講師：菊地 大樹 先生

【講義概要】

この講座は、歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくことを目指します。これは言い換えれば、教理文献に残された思想を、それが著された時代の文脈の中で立体的にとらえなおす営みに他なりません。しかもひとつの時代は系譜となって、前後に長く連なってもいます。そこで日蓮の生きた鎌倉時代をつねにどこかで射程に入れつつも、ときには原始古代にまでさかのぼり、また私たちの生きる近現代にも立ち戻って進んでいきたいと思えます。

2022年度前期は、日蓮が歴史に登場する前提となった「持経者」という宗教者の活動を追ってみましょ

う。古文書や公家日記、説話などを活用しながら、その歴史的な役割について考えてみたいと思います。法然や親鸞、そして日蓮ら鎌倉仏教の祖師たちは、間違いなく宗教的エリートでした。しかし、彼らを孤独なインテリゲンチヤとのみ考えることは、歴史的思考とは言えません。彼らの登場にはかならず歴史的な前提があり、それゆえに思想的系譜に位置づけることが可能となります。『法華経』にも説かれる持経者は、日蓮をはるかにさかのぼる 8 世紀の日本に存在し、日蓮ののちも中世を通じて活動していました。彼らの修行内容は多彩で、山林修行者や密教の行者、また芸能に秀でた者たちも多かったのです。かつて「昼夜十二時の持経者」と自称した日蓮は、最後にはその立場を脱して「法華経の行者」となっています。両者にはどのような違いがあるのでしょうか。最終回の特別講義では間宮啓壬先生をお迎えし、対談形式で参加者と一緒にこの問題を考えていきたいと思っています。

【講師略歴】

菊地大樹（きくちひろき）： 東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所教授。著書に『中世仏教の原形と展開』（吉川弘文館、2007 年）、『鎌倉仏教への道』（講談社、2011 年）、『日本人と山の宗教』（講談社、2020 年）他。論文に「再考：持経者から日蓮へ」（『花野充道博士古稀記念論集』山喜房仏書林、2020 年）、「中世東国文化伝播論再考」（菊地大樹他編『寺社と社会の接点』高志書院、2021 年）他。

【講義日】 全5回、時間（原則・第3火曜日）：午後 6 時 30 分～8 時 30 分

第 1 講 4月 19日（火） 山林修行と持経者

第 2 講 5月 17日（火） 持経者としての後白河院の宗教世界

第 3 講 6月 21日（火） 持経者から日蓮へ—密教をめぐる問題—

第 4 講 7月 19日（火） 南都堂衆の活動と持経者

特別講義 9月 17日（土）午後 4 時 30 分～7 時 30 分

「対談：法華経の行者か、持経者か—間宮啓壬先生をお迎えして—」

※特別講義は開催の曜日・時間が異なりますので、ご注意ください。

【会 場】 新宿常円寺 祖師堂 3階会議室

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義に切替えて同じ日時にて開催する予定です

【受講料】 1期分 10,000 円（全5回の講義） ※当日 1 回の受講料は 3,000 円です

—法華コモンズ仏教学林 2022 年度 前期 連続講座 6回—

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の前期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。前期も「方便品」の随文釈義の部分进行学习していきます。

★教科書『法華文句』Ⅱ（第三文明社、各冊 2,530 円）★割引価格 2,000 円

★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんのひろし）：1952 年福島県生まれ。1976 年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984 年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994 年文学博士（東京大学）。現在、創価大学文学部教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か—摩訶止観正修止観章一』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経—永遠の菩薩道—』（大蔵出版）など多数。訳書に『現代語訳 法華玄義』上・下（東洋哲学研究所）、『現代語訳 法華玄義釈籤』上・中（松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所）など多数。

【講義日】 全6回、時間（原則・最終月曜日）：午後6時30分～8時30分

第1回（第47講）	4月25日	第4回（第50講）	7月25日
第2回（第48講）	5月30日	第5回（第51講）	8月29日
第3回（第49講）	6月27日	第6回（第52講）	9月26日

【会場】 新宿常円寺 祖師堂 3階会議室

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】 1期6回分 12,000 円 ※当日1回の受講料は 3,000 円です

法華コモンズ仏教学林 講座映像(DVD)シリーズ 販売中!

◎「初期仏教研究」

池上要靖先生 全6回

【講師】池上要靖（いけがみようせい）：立正大学大学院修士課程修了。身延山大学仏教学部長・教授。立正大学文学部非常勤講師。専門は、初期・東南アジア仏教、仏教福祉学。論文に「kulaputri が意味するもの」など多数。

第1回「初期仏教経典の理解」

第2回「史料価値としての初期経典」

第3回「経典成立の過程—記憶から記録へ—」

第4回「仏滅年代の記述」

第5回「もう一つの仏像建立史」

第6回「初期仏教経典は仏説か？」

◎「『吾妻鏡』と鎌倉仏教」

菊地大樹先生 全6回

第1講 『吾妻鏡』と鎌倉仏教

第2講 源頼朝の時代と法華信仰

第3講 鎌倉武士と仏教

第4講 都市鎌倉と天台宗

第5講 都市鎌倉と日蓮

第6講 京と鎌倉、そして鎌倉仏教

◎「歴史から考える日本仏教」

菊地大樹先生 各全6回

① 鎌倉時代を射程にいれて

② 《顕密問題》を考える

③ 日本宗教史の名著を読む

④ 鎌倉仏教史の名著を読む

※講義の概要などは法華コモンズブログの講義報告(2018年4月～)で確認できます。

【A版】全6回講義の動画ファイルとレジュメPDF ダウンロード販売:価格 12,000円(消費税込)

※高画質の動画のため、高速インターネット環境をお持ちの方に適しています。

【B版】全6回講義のDVD6枚組とレジュメ印刷物 郵送(レターパック)販売:価格 12,500円(消費税込)

※インターネット環境をお持ちでない方、家庭用DVDプレーヤーによる再生の方に。

【ご購入方法】

A、住所・氏名・電話・購入の版をご記入の上ファックス送付⇒ FAX 番号 042-627-7227

B、ブログの講座申し込みフォームによる申し込み⇒ <https://hokke-commons.jp>

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙（チラシ）申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期分の「受講料」をお振込下さい。また「コモンズ口座の郵便振込票」をお持ちの場合は、通信欄に希望講座をお書きの上、振込票をお使いください。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com
FAX 番号⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい（いくつでも結構です）》

「仏教哲学再考一『八宗綱要』を手掛かりに」④（全4回） 講師：末木文美士

連続講座「法華仏教講座」（全6回）

※個別の受講の場合 1回 2回 3回 4回 5回 6回

歴史から考える日本仏教 ㊟

法華持経者の思想的系譜（全5回） 講師：菊地大樹

「『法華経』『法華文句』講義」（全6回） 講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才

○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2022(令和4)年 2月7日 発行 **法華コモンズ仏教学林 事務局**